

公益財団法人 福岡アジア都市研究所 都市政策資料室

URC資料室だより NO. 118 平成30年9月号



Urban Research Center, Fukuoka

## ◆URC資料室ニュース

## ①平成30年度 第2回 ナレッジコミュニティ

## 「コンパクトシティと言われる福岡の街を支えるインフラ整備について」

参加者募集中!

8月1日、当研究所の前身である財団法人福岡都市科学研究所が設立されてから30周年を迎えました。

そこで、今年度のナレッジコミュニティでは、福岡市のこれまでの30年の変化を様々な切り口で振り返るシリーズを、4回に分けて行っています。

シリーズの第2回目は、この30年のインフラ整備の軌跡について、長年福岡市をはじめ自治体の都市計画審議会や交通計画審議会の委員や会長を務められ、実務に関わられた樗木武前理事長に「コンパクトシティと言われる福岡の街を支えるインフラ整備について」をテーマに、初心者にもわかりやすくご講演いただきます。

コンパクトシティとして注目される福岡の街を支えるのは、機能的で充実したインフラによるところが大きいのと思われまます。その整備の歴史を一緒に振り返ってみ

ませんか。どうぞ、お気軽にご参加ください。

【日 時】平成30年9月25日(火)  
15:00~16:30(受付開始 14:30)  
講演・意見交換

【会 場】アクロス福岡 2F セミナー室2  
福岡市中央区天神 1-1-1

【定 員】30名 ※先着順受付

【お申し込み】Eメール(library@urc.or.jp)または  
FAX(092-733-5680)で、①氏名・②所属・③電話番号・④Eメールアドレスをご記入のうえ、お申し込み下さい。(メール件名:平成30年度 第2回 URC ナレッジコミュニティ参加希望)

【締め切り】9月20日(木) 必着です。

写真: URC 撮影 (山崎三枝 都市政策資料室司書)

## ②平成30年度 第1回 ナレッジコミュニティ

## 「都市政策資料室からみた福岡市の30年」を開催しました!

8月10日、福岡市研修室403研修室において本年度第1回ナレッジコミュニティ「都市政策資料室からみた福岡市

の30年」を開催しました。



まず、テーマについて司書の山崎が報告し、設立初期と2010年前後にそれぞれ研究主査、副理事長として在席された松本法雄さん、財団統合時事務局長として在席された安丸弘之さん、設立20周年頃事務局長として在席された桑田哲志さん、2012年から4年間事務局長として在席された現在城南区長 梶原信一さんに、それぞれ当時のURCについて語っていただきました。

その後、ご参加の皆さまに①福岡市に期待するもの、②URCに期待するもの、③都市政策資料室に期待するものの3点について考えていただき、それぞれのご意見やご提案を付箋に書いてホワイトボードに貼っていただきました。

その付箋の中から、山崎が気になるものを選びだし、

書いた方にコメントをいただきました。初めてのスピーカー、付箋選択で余裕が無く不慣れな指名にもかかわらず、根気よく対応してくださいました皆さま、ご清聴下さいました皆さまに心から御礼申し上げます。当日は46名の参加があり、URCのOB、市民研究員のOBの方など、なつかしい顔の方も多く、皆さまのURCに対する期待の声をたくさんいただきました。



皆さまに書いていただいた貴重なご意見は、資料室で当日の写真とともに掲示しておりますので、この機会にご覧くださいましたら幸いです。

皆さまの期待に少しでも沿えるよう、これからも努力してまいります。

お盆直前のお忙しい時期にもかかわらず、ご参加くださいました多くの皆さまに、心から御礼申し上げます。

写真：URC撮影（山崎三枝 都市政策資料室司書）

## ◆URCニュース 福岡市国際視察研修受入報告

2018年8月、韓国から2団体、ネパールから1団体、合計2か国、3団体、37名が福岡市の住み良いまちづくりに関する取組を学びに来ました。各視察団は、西部中田埋立場、西部污水处理場、市民福祉プラザを視察しました。

韓国の視察研修の多くは、福岡市の地域包括ケアシステムや介護保険制度など、高齢者福祉の取組みに関するものです。

その理由の一つは、急増している高齢化率だと考えられます。韓国統計庁によると、韓国の高齢化率は、2000年7%が、2018年14.3%に到達すると予測されています。

す。これは、日本より約6年早いスピードです。さらに、少子化問題（統計庁：2017年全国出生数：1,052名）も重なっているため、その解決策を探る動きは、これからも続くと考えられます。



韓国：南陽州市社会福祉士協会 訪問団の福岡市民福祉プラザ訪問

写真：URC撮影（李英雄 国際視察研修担当）

国名	65歳以上の人口割合が7%に達した年次	65歳以上の人口割合が14%に達した年次	倍化年数 7%→14%に要した期間
日本	1970年	1994年	24年
ドイツ	1932年	1972年	40年
イギリス	1929年	1976年	47年
アメリカ	1942年	2015年	73年
スウェーデン	1887年	1972年	85年
フランス	1864年	1979年	115年

参考資料 ◆高齢社会へ到達するのにかった年数の国際比較 出典 平成17年度 厚生労働白書



◆今月のおすすめ/書評

## 『「グローバル・シティ」～ニューヨーク・ロンドン・東京から世界を読む～』

サスキア・サッセン著、伊豫谷登士翁監訳、大井由紀・高橋華生子訳（筑摩書房）

1991年に初版が出版されて話題を呼び、2001年に全面改訂された第2版が2008年に邦訳された。

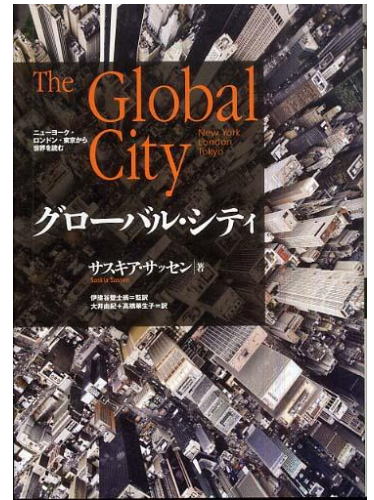
世界の政治、経済、文化をリードする重要な機能は、ニューヨーク・ロンドン・東京などのメガ・シティに集積しているとする。企業の本社機能はメガ・シティを離れる傾向も見られるが、金融、法律、会計などの高度専門サービス企業はメガ・シティへの集積を高め、世界の社会・経済活動をコントロールするとともに、高度専門職に従事する人々が政治、経済、文化に様々なインパクトを与えている。

一方で、ビルの清掃、育児や高齢者介護、家事などの肉体労働は外部化が進み、膨大な低賃金労働者が都市活動の底辺を支えている。特に、ニューヨークやロンドンでは、数多くの移民労働者がこのような肉体労働に従事している。結果的に世界的規模での格差の拡大が進行していると実証的に分析している。現在進行している世界のダイナミズムを解き明かした名著ではあるが、全面改訂から17年を経過しており、データなどをアップデー

トした第3版の刊行が期待されるところである。

果たして、東京は2001年と同様なグローバル・シティに位置づけられるのであろうか？超高齢化が進む東京において、グローバル・シティのダイナミズムが未だに維持されていると判断出来るだろうか？また、福岡のグローバル化を考えるにおいても、本著の与える示唆は多々ある。ただ住みやすいだけの都市から世界にインパクトを与える都市に変貌していくためには何が必要であり、何を切り捨てなければならないのか？福岡の成長を考えるうえでも必読の書と言える。

（野田順康 特別研究員（西南学院大学教授））

◆アジア都市景観賞ポスター展示中

8月1日から3日まで、アジア太平洋都市サミットの市長会議開催に伴い、アジア都市景観賞のPRイベントを行いました。その

ときに使用したポスターを、資料室入り口の展示コーナ

ーでただ今展示しています。

タイのバンコク、ベトナムのダナン、ネパールのカトマンズ、シンガポール、インドネシアのスラバヤ、ミャンマーのヤンゴン、中国の銀川、韓国の釜山、浦項、チェジュ、日本からは北九州、鹿児島市、長崎市、熊本市、福岡市です。この機会にご覧いただき、事業へのご理解を深めていただけましたら幸いです。

◆特別寄稿 \*一人一花の楽しみ\* 第7回 9月 彼岸花(ヒガンバナ)

残暑お見舞い申し上げます。

今年の夏は、本当に酷暑！毎日茹だっていますが益過ぎても一向に衰えを見せない暑さは、残暑と云えるの？と疑う。しかし、時折吹く風は・・・確かに一瞬心地よい。

皆さまは、どんな9月をお迎えでしょうか？酷暑を引きずる9月が始まりました！

さて、9月のイベントご紹介です。「全国まちづくり会議2018in福岡」（主催：認定NPO法人日本都市計画家協会、共催：九州大学（伊都キャンパス完成記念行事）後援：福岡県・福岡市）が9月8日、9日、10日と3日間に渡り、全国からさまざまなジャンルのまちづくり家たちが集い、開催されます。

2005年から大会14回目のホスト地福岡では、福岡支部、福岡市など関係者が官民挙げて準備中です。木村は、

9日（日）の分科会「花と緑のまちづくりフォーラム」を担当しますので、ぜひ、お出かけください。会場は「九州大学箱崎キャンパス」、「跡地」が付く直前の歴史あるキャンパスに

「全国からまちづくり家たちが集い、交流を深める3日間」全まち福岡が最後に灯を灯します。そんな浪漫を感じる大会です。担当するフォーラムでは「一人一花」は福岡市の必須ワード。しっかり全国にお披露目しますね！「全国の花と緑に携わる人たちの交流」も14年目を迎え、福岡開催年に「一人一花」が誕生とは？！不思議な時句の巡り合わせを感じながら・・・



9月の「一人一花」は、彼岸花(ヒガンバナ)をご紹介します。ヒガンバナ科ヒガンバナ属、原産地は日本、中国など、英名はLycoris radiate、別名 リコリス、曼珠沙華(マンジュシャゲ)。球根植物で品種は800種以上あり、花色も赤、白、クリーム色と多彩です。花言葉は花色によって違いますが、赤は「情熱的、再開」などアクティブな花言葉もありますが全色共通なのは「悲しい思い出、あなただけを思う」などです。

また、ネリネはヒガンバナと良く似ていますが、ヒガンバナ科ネリネ属で花と葉が同時につきますが、彼岸花は花が咲いた後に葉が出ますし、花姿もシベが長く反り返っています。別名の曼珠沙華は仏法用語で「天界の花」の意。まさに、秋の彼岸にお墓の近くで咲いたり、田んぼの畦に一齐に赤く妖しげに咲く風景は異様に美しく心魅かれます。球根には強い毒性があり、モグラや害虫等は決して近づきません。土葬された大切な人や、稲などをモグラや害虫から守っている花姿が根にあるのでしょう。「幽霊花」や「死人花」など酷な名前もあり気の毒になります。

花の名所は全国に渡りますが、有名なのが埼玉幸手市

県立権現堂公園 350万本の曼珠沙華まつり(写真)。昨年では40万人の曼珠沙華ファンが訪れました。

自宅で花を楽しむなら、球根から栽培がおすすめです。育て易く球根が分球して増えていきますので初心者向きです。土は水はけの良い赤玉5腐葉土4川砂1の割合で肥料は少なめ、球根は浅植えが良いです。花後の花がら摘みで特に手もいらず年々増えてくれます。



自宅の庭やベランダで曼珠沙華を楽しんで故人を偲ぶお彼岸も良いものですよ♪

写真：福岡市提供 執筆：福博・花まち研究会会員 きむらみえこ(環境演出家®)

### 編集後記

8月10日のナレコミには、多くのご参加、誠にありがとうございました。

この企画が提案された時、真っ先に「設立準備担当から設立にご尽力された方々と30年をお祝いしたい。」という気持ちが強くなりました。何より今の資料室、私があるのはURCの設立が無ければ考えられないことです。まずは、それに感謝したいと思いました。そして30年前の職員の皆さんたちと、ゆっくり思い出話ができたら・・・良かったのですが、相変わらず余裕のない私、懇親会でもあまり時間はとれませんでした。

発表の準備段階では、不慣れなこともあり、パワポの原稿作りに時間がかかること！毎日夜遅くまで作業を続けましたが、そんな私を許してくれる家族にも感謝せずにはられません。振り返ると、30年前、子どもたちが小さかった頃でも飲み会を断ったことがありませんでした。核家族で、3人の子育てを一身に荷っている娘を見ながら、恵まれていた子育て環境に気づかされます。

30年という時の流れは、振り返ると「あっ」という間で、実は長いです。光吉初代理事長はじめ、常務理事と鬼籍に入られた方も少なからずいらっしゃいます。8月1日、設立30周年記念日はお世話になった方のお葬式でした。その方々にも思いを馳せながら、ここまで来られたのは、今現在も含め、その時々山崎や資料室に根気よく関わってくださった職員の皆様、そして利用者の方のおかげです。「都市政策資料室に期待するもの」の付箋を見ながら、これからどのように恩返ししていけるか思案中の山崎です。

ところで、「資料室だより」のタイトルですが、30周年を記念し1年間、福岡都市科学研究所設立当時のロゴマークを使うことにいたしました。いかがですか？

特別寄稿をご執筆くださっているきむらみえこさんに、ご自身も登壇される「全国まちづくり会議」のご案内をいただきましたので資料速報の最終ページでお知らせします。URCのOB、市民研究員のOB、FDCの職員等の登壇もありますので、ご興味のある方は、是非どうぞ！

今月の一花は「彼岸花」。色づき始めた田んぼを背景にした花が大好きで、その赤は亡くなった人を想う気持ちに痛いぐらい染み込みます。お彼岸はおはぎを作ったの墓参り、楽しみは道中、西畑公民館横の段々畑です。(崎)



写真「脇山の風景」：田梅朋子氏ご提供